第10課　小さな苦難の時

【暗唱聖句】

「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません」エフェソ4：26

【日曜日・対立】

イエス様は「平和を作り出す者は幸いである」と言われました。私たちが常に平和を作り出すことが神様の御心です。わたしたちはいかなる理由があろうとも、他者と対立することを聖書は許していません。仮に相手の中に非があろうとも、イエス様は「偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる」（マタイ7：5）と言われ、まず自分自身に問題がないか見つめてみなさいと言われました。問題のない人などいません。自分の中にも問題があることを認めれば、相手に対する態度も変わってくることでしょう。

また箴言17：14では、「いさかいの始めは水の漏り始め。裁判沙汰にならぬうちにやめておくがよい」と教えています。最初は小さな始まりだったとしても、一度争いを始めてしまえば、それがどんどん大きくなってしまい、後戻りできないような大変な事態に陥ることが少なくありません。だから賢く生きたければ、そうなる前に争うことを止めるべきです。争うことに大切な一度きりの人生を消耗させてしまうのは、本当に愚かなことです。

箴言19章 11節では「成功する人は忍耐する人。背きを赦すことは人に輝きをそえる」とあるように、じっと忍耐すること、そして相手を赦す人は、輝きに満ちた人生の成功者となることを教えています。

「だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」ローマの信徒への手紙14：19

わたしたちが求めるべきは対立ではなく、平和であり、互いの向上に役立つ言葉と態度です。いつもそのような態度でいられるように祈りましょう。

【月曜日・結婚のためのいくつかの原則】

結婚の制度は神様が安息日と同様に人間に祝福として与えてくださったものです。ところが、この祝福に満ちたはずの結婚によって、多くの悲劇が生まれています。サタンは神様が祝福されたものが憎いのでしょう。しかし、夫婦の間に、聖書が教えて本当の愛が反映されるならば、これほど祝福された素晴らしいものはないのです。

「わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです」エフェソ1：7

わたしたちは御子の犠牲によってすべての罪を赦されました。だからわたしたちも人を赦さなければなりません。一番近くの人がまず赦しの対象です。

「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています」ローマの信徒への手紙3章 23節

そもそもわたしたちはみな罪びとであり、神様の栄光を受けることができない存在です。そんな者同士が結婚したわけですから、当然お互いに欠点や受け入れがたい点があるのは当然なのです。結婚は愛と赦しの学びやでもあるのです。

【火曜日・対立における怒りの役割】

アメリカの心理学者エルマ・ゲイツ博士（ハーバード大学教授）は、「怒りや憎しみや悪意は、人体内に毒素を作る。一方、明るく楽しい感情は、免疫物質を作る」と述べています。怒りは脳からノルアドレナリンを分泌させますが、この物質には毒性があり、マムシ（毒蛇）に次ぐほど強力なものです。逆にプラス思考は脳内にモルヒネを分泌し、老化を防ぎ自然治癒力を向上させます。

怒りは霊的な視点においても、恐ろしい結果を招く可能性があることを聖書は警告しています。

「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。悪魔にすきを与えてはなりません」エフェソ2：26，27

怒りはサタンにすきを与えることになると聖書は警告しています。このすきを与えるという言葉の直訳は、合法的に橋げたを渡して侵入してくるということです。本来、クリスチャンの心の中にサタンが入り込むことはできません。守られているのです。しかし、怒りの感情を引きずるなら、サタンを合法的にクリスチャンの心の中に入ってくることができるようになるのです。怒りそのものを聖書は罪と言っていないことは注目に値します。しかし、日が暮れるまで怒ったままでいるなら罪となります。神様から心が離れてしまっているからです。そして、サタンがやってくるのです。これは本当に恐ろしいことです。

「気短に怒るな。怒りは愚者の胸に宿るもの」コヘレト7：9

怒りは愚か者の胸に宿るものだと聖書は言います。わたしたちは常に心穏やかであることができるように祈らなければならないし、怒りが生じたらそれをその感情を持ち続けてしまうことがないように注意したいものです。イエスの兄弟ヤコブは次のように教えています。

「わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。人の怒りは神の義を実現しないからです」ヤコブ1：19，20

【水曜日・対立、虐待、力、支配】

「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです」第一ヨハネ4：7，8

そもそも怒りや対立が起こるということは、神様を知らないからです。神様は愛のお方ですから、神様からは愛しか生まれません。怒りの感情が生まれることはありえません。この世はサタンに支配されています。だから、平気で子どもを虐待したり、暴力事件などが起こったりします。もし、わたしたちが本当に愛を生きるものになりたければ、神様をもっと深く知る以外にありません。神様を知るとは、神様と共に生きるということです。具体的には、祈って御言葉に生きることです。

「夫たちよ、妻を愛しなさい。つらく当たってはならない」コロサイの信徒への手紙3章 19節

たとえば、夫は妻に対してつらく当たってはならないと教えられています。どんなことがあっても夫は妻につらくあたってはいけないのです。夫も人間ですから、うまく行かないときもあるでしょう。ではどうすべきなのか。答えは一つです。神様をもっと知るということを、真剣に求めていくことです。神様を深く知ることと、妻への愛は比例します。

【赦しと平和】

「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」マタイによる福音書7章 12節

相手に何かを言ったり、したりする前に、自分がどうしてもらうと嬉しいだろうか、あるいはどうされると嫌な思いがするだろうかと深く考え、相手にとってもそれは同様であることを思いつつ行うことが大切だと聖書は教えています。要は相手の気持ちになってということですが、よくわからないときは自分だったらどうだろうかと想像してみなさいということです。

「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません」ヘブライ人への手紙 12章 14節

私たちに求められていることは、他者と平和を築くこと、そして聖なる生活を追い求めることです。他者との間に争いがあれば、どうして聖なる生活を送ることができるでしょうか。他者と争いながら、聖なる生活を送っていると言うのなら、それは偽善です。

「だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい」マタイ5：23，24

私たちは人を赦すことだけでなく、人から赦される必要もあります。つまり、もし自分に過ちがあることがわかったら、謝罪することです。クリスチャンがいつも正しいわけではありません。心砕かれて、自分の非を認める態度が大切です。